

歴史・文化探訪

宇都宮・東谷の歴史

宇都宮・東谷の歴史



2884・129-920 TEL
宇都宮市東谷町1-1-1
宇都宮市東谷町1-1-1
宇都宮市東谷町1-1-1

（山内）宇都宮市東谷町1-1-1

宇都宮市東谷町の歴史中央に位置しています。北には日光連山、西南には富士山を望み、東谷は日光街道が通る交通の要衝地で、宇都宮ICの東北自動車道や日光宇都宮道路から、首都圏や日光、鬼怒川、尾瀬、那須、会津方面等へアクセスしやすくなり、活気に満ちた地域です。また、関東自動車道の組合車庫、宝木団地、日光街道と市内中心部を結ぶ南北方向の路線バスがあります。

人口・世帯
細谷・上戸祭両小学校の通学区域の4.2km²に、7,000世帯17,000人が居住しています。

交通事情
南部には宇都宮環状道路が東西に走り、中央部には日光街道が縦断、その東側には宇都宮北道路、西側には新里街道が通る交通の要衝地で、宇都宮ICの東北自動車道や日光宇都宮道路から、首都圏や日光、鬼怒川、尾瀬、那須、会津方面等へアクセスしやすくなり、活気に満ちた地域です。また、関東自動車道の組合車庫、宝木団地、日光街道と市内中心部を結ぶ南北方向の路線バスがあります。

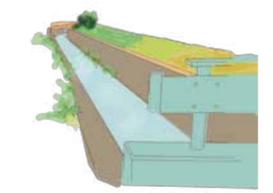
立地施設
幼・保、小・中学校から高校、大学・特別支援学校が立地する市内有数の文教地域となっています。暮らしに欠かせない病院や診療所、商店、スーパーマーケット・ホームセンター・ドラッグストア・コンビニ、飲食店、銀行、郵便局、市宝木出張所、北生涯学習センター、消防署宝木分署、細谷・上戸祭地域コミュニティセンターなど、様々な公共施設もあり利便性に富んだ暮らしやすい地域です。

歴史経緯
江戸時代の五街道の一つの日光街道、農用地利用を高めた新川（宝木用水）、市内最大級の円墳、旧陸軍14師団の面影を残す建築物などの歴史遺産が数多く残っています。

縄文時代	三本松遺跡、御殿場遺跡、上戸祭中ノ島遺跡、野沢遺跡、北原遺跡
弥生時代	大塚古墳、大ノ古墳群、山崎古墳群、前田遺跡、北の前遺跡
古墳時代	根河原山古墳群、上戸祭大塚山古墳群、前田遺跡、北の前遺跡
奈良時代	至徳4年(1387) 妙吉塚遺跡
室町時代	元和5年(1619) 日光街道の完成、上戸祭一里塚
徳川時代	寛文10年(1670) 西岡十右衛門新田開墾開始
寛文11年(1671)	長良神社、雷電神社を上州への勧請
文化13年(1816)	薬師如来堂敷建立
弘化3年(1846)	馬頭観音建立
安政5年(1858)	宝木用水完成
明治40年(1907)	第14師団設置、歩兵第66連隊倉庫(赤レンガ倉庫)

令和2年9月1日 第2期 3000

発行/細谷・上戸祭地域まちづくり協議会
イラスト/長谷川幸子、宇都宮市東谷町1-1-1
写真/宇都宮市教育委員会
協力/宇都宮市教育委員会



1 宝木用水（新川）
宝木用水は、二宮堰から田川の水を引き込み、宝木の台地を流れる人工の川である。二宮尊徳、吉良八郎らの手を経て1859年に完成した。用水の水は、徳次郎および西原十ヶ新田（高谷林、足次、藤岡、仁良塚、悟理道、西岡、山崎、細谷、江黒、六軒）の田畑を潤し、米が作れるようになった。新川とも呼ばれ、市内を縦断して江曾島周辺の田畑を潤し、姿川に合流している。



2 釜川
釜川は、宇都宮市を流れる利根川水系田川支流の一級河川である。野沢町の東弁天沼を水源とする東釜川、西弁天沼を水源とする西釜川は、宇都宮丘陵の西側で合流して釜川となって南流し、市街地を経て田川と合流する。川名の由来は、「流域の地形が侵食によってカマのような形をしている」とか、江戸期地図に「賀茂川」とあることから、京に縁が深い宇都宮氏が京の鴨川に擬して命名したなどの説がある。



3 上戸祭の一里塚
江戸時代の「日光道中」沿いにあった一里塚の一つ。「日光道中」は、徳川家康を祀る日光東照宮に参拝するための道で、一里塚は一里(約4km)ごとに塚を築き、旅人に里程を知らせたものであった。上戸祭の一里塚は江戸から28里を示したもので、昭和58年度に一部修復整備、日光街道両側に残っている。



4 弁天橋
野沢町西弁天沼を水源とする西釜川は下流で日光街道をくぐって東弁天沼を水源とする東釜川と合流して釜川となるが、その日光街道の橋が弁天橋と呼ばれている。



5 長良神社
上野国邑楽郡、細谷村・西岡村出身の水害被災者たちが故郷を離れ、宇都宮藩の西原新田に入植、開墾した際、心の支えとなったのが郷里の鎮守、作神で名高い長良・雷電神社である。いずれも境内面積は1500坪を所有、神社森はうっそうとして400年の歴史を物語る見事なもの。創建は、江戸時代前期の寛文11(1671)年で、上野国邑楽郡細谷村より移住した人々が氏神を分祀したことに始まるという。主祭神は事代主命である。例祭は年1回で、11月23日に地元の方々を中心に行っている。



6 雷電神社
創建は、江戸時代前期の寛文11(1671)年で、上野国邑楽郡細谷村の鎮守を勧請したことに始まるという。主祭神は大雷神である。例祭は年1回で、4月25日に氏子たちにより執り行われている。



7 宇都宮石材軌道（トロッコ）
1896(明治29)年に宇都宮軌道運輸株式が設立され、大谷石の輸送量拡大を目的として人車軌道が建設された。一方、新里で産出する石の輸送を目的に野州人車鉄道が1899(明治32)年に戸祭～新里間を開業し、1903(明治36)年に仁良塚より分岐して徳次郎までの路線が開業した。その後、1906(明治39)年に宇都宮軌道運輸(株)と合併し、社名を宇都宮石材軌道株式と改名した。昭和に入ると、人車軌道客車は人力からガソリン駆動へ動力が切り替わり、「自動トロ」と呼ばれるガソリンカーが登場したが、1931(昭和6)年に宇都宮石材軌道(株)は東武鉄道(株)に合併吸収され、徐々に人車軌道は廃線となった。



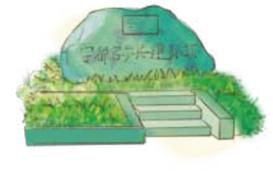
8 とちぎ健康の森
とちぎ健康の森は、少子高齢化が急速に進行する中で、誰もが健康で快適に暮らせるよう開設された。この施設内には、とちぎ健康づくりセンター、とちぎ生きがいづくりセンター、とちぎリハビリテーションセンター、わかかさ特別支援学校等がある。



9 開拓の碑
明治41年以降陸軍の精鋭を育てた宝木練兵場の原野に、太平洋戦争終結後の昭和20年36名が入植して開拓した。軍靴に踏み固められた不毛の地を入植以来20数年かけて模範的な開拓地を完成させたもので、幾多の苦難を克服した開拓精神を記念して設立された。



10 宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫（旧第六十六歩兵連隊倉庫）（国登録文化財）
宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫は、明治40(1907)年の宇都宮への陸軍第14師団設置に伴い、歩兵第66連隊の厨房関係施設として建設された。その後、軍縮により66連隊が廃止されると、跡地は栃木師範学校に引き継がれ、戦後の昭和31年に現在の宇都宮中央女子高が移転した。平成14年に改修が行われ、現在は、多目的ホールに用いられている。切妻造りの平屋建てで、外壁がイギリス積み煉瓦造、小屋組は木造トラスである。市内に残る軍事関係施設のうち、唯一の明治期の建物である。



11 宇都宮歩兵連隊跡忠魂碑
明治41年(1908年)宇都宮に陸軍第14師団の着営配下にあった歩兵第59連隊、66連隊は郷土部隊として大任に当たり、祖国のため散華された幾多の先輩戦友の英霊を慰めるために建立された。



12 水無橋の欄干跡
練兵場の雨水を集めて釜川に流すための用水路にかかっていたもので、普段は水がないことから、この名が付けられた。



13 高尾神社（高麗神社）
境内の地蔵堂には、妙吉子育安産高地蔵尊が安置され、地蔵堂に接して妙吉塚と呼ばれる高塚がある。頂部には至徳4(1387)年の年号を刻んだ宝篋印塔が載る。高地蔵尊は、地蔵堂の南側にある高地蔵大菩薩供養塔に「文政□□年」とあるので、文政年間(1818～1830)に建立されたものと思われる。



14 薬師堂
薬師如来や仏像を守護し続けたお堂がある。「日光道中分間延絵図」にも描かれ、敷地内には享保4(1719)年を最古として十九夜塔や大乗妙典供養塔など十数基の石造物が安置されている。



15 馬頭観世音
この碑は弘化3(1846)年に建てられたものである。馬頭観音は馬頭明王とも言われ、八大明王の一つ。馬の保護神として、特に江戸時代から信仰され、道筋や農家の庭先などにその碑が建てられた。



16 宇都宮市戸祭配水場（水道山）
戸祭配水場は、“水道山”の愛称で親しまれてきた。大正2(1913)年に着工し、大正5(1916)年3月から給水を開始した水道創設当時から施設で、今市浄水場から戸祭配水場まで日光街道に送水管が埋設されている。



17 仏舍利塔
世界の平和と人類の幸福を祈願するとともに戦没者の慰霊のために日本山妙法寺の山主(藤井日達上人が願主)が栃木県の石材、大谷石で造った大仏舍利塔。その規模は、基底直径30.3m、高さ29.6m。インドのネール首相から仏舍利10粒のうち1粒が贈られたことから、栃木県仏舍利塔奉賛会が結成され、昭和39年に平和仏舍利塔が完成。



18 長岡公園
この公園は、昭和63年度に設置した公園緑地懇談会からの意見をもとに、公園敷地が長岡最終処分場の埋立跡地であることから、「緑の創出とコミュニティの形成」をテーマに、市民が身近に季節感あふれる自然とのふれあいや、軽スポーツを含むレクリエーション活動に利用できる場所として整備された展望の丘、文芸のもり、記念樹のもり、郷土のもり、花見のもり、憩いのひろば、彫刻のひろば、香りのひろば、花のステージなどがある。



19 大塚古墳（栃木県指定史跡）
宇都宮丘陵の南端の尾根に近い西側緩斜面に築かれた直径約53mの大型円墳である。墳丘は2段になっており、高さ3.4mの第1段の上に高さ2.8mの第2段がのっている。墳頂は約9mの範囲が平坦になっている。周溝は一部破損しているが、北西から東側にかけて残存し、その幅は約6.6m、深さ約1.3mである。築造時期は6世紀末頃に位置付けられている。



20 オオジノ古墳群
宇都宮丘陵上に立地する古墳時代後期の古墳群で、現在9基の円墳が確認されている。発掘調査が行われていないため、詳しい内容はわからないが、隣接する大塚古墳と同様に横穴式石室をもつ古墳群と考えられる。



21 長岡百穴古墳（栃木県指定史跡）
長岡百穴古墳は7世紀前半ごろに造られた家族墓的な要素が強い横穴墓群と考えられ、凝灰岩が露出した斜面南に東群44基、西群8基の計52基の横穴が開口している。